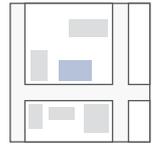


② 沿道に位置する場合



壁面デザインが調和しています

壁面の素材や色彩に配慮することで、一体感のある個性豊かな街並みをつくり出しています。



看板や広告物に配慮しています

広告物が周辺の建物や雰囲気と溶け込んでいます。



低層部のデザインの工夫

建物の低層部は特に歩行者の目につきやすい部分で、街並みをつくっていく上では重要です。軒の高さや開口部などの位置、色彩や素材などを歴史的景観資源と協調させることで、連続感やリズム感のある街並みができます。



適切な素材の選択

歴史的景観資源は時間の経過とともに素材の持ち味や落ち着きが増していきます。調和を考えた素材を選択することで、歴史的景観資源が際立つとともに、周辺の建物も同時に活かすことができます。

壁面の位置について

- ①歴史的景観資源と周辺の建物を協調させて連続的な街並みとしたい場合は、壁面の位置をそろえることで、一体感を創出できます。
- ②一方、歴史的景観資源のシンボル性が高い場合は、周囲の建物をセットバックさせることで、際立たせることができます。

色彩に配慮しています

歴史的景観資源との調和を意識した色彩を用いています。サッポロファクトリーの向かいの建物でも同様の手法が見られます。



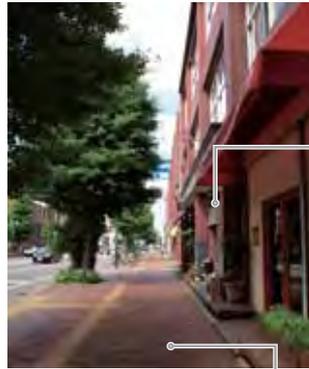
建物の色彩

彩度の高い色を建物の大きな面積で使用すると目立ってしまい、街並みの調和を乱します。歴史的景観資源との調和を考えた色彩を検討すると、落ち着いた雰囲気が生まれます。



沿道の植栽に連続性があります

歴史的景観資源沿道の樹種や規模が連続して配置されていることで、景観のシークエンスを意識したリズム感のある街並みができています。



カフェとして利用されています

通りに面している1階部分を飲食店に活用しています。これにより、人も集まり賑わいも生まれています。



看板がすっきりしています

沿道に煩雑な突出看板や置き看板がなく、視界がひらけており、街並みがすっきりとまとまっています。

植栽の種類

歴史的景観資源周辺の敷地に樹木等を植栽する場合は、周辺の樹木、街路樹との関係などを考え、環境に調和する樹種を選んで配置することで、調和のとれた街並みができます。



沿道の舗装が調和しています

沿道の舗装の素材や色彩を歴史的景観資源に合わせて整備しており、連続性のある街並みをつくり出しています。



景観 まちづくりの POINT

シークエンスを意識してみましょう

人々が歩くことや車を運転することで、次々と移り変わっていく景観を、シークエンスと言います。

歴史的景観資源への視点が移り変わることで、歴史的景観資源や周辺の建物を含めた見え方が変化していきます。景観の変化や連続性、一定のリズム感などを意識することで、まち歩きが楽しくなるような魅力的な景観づくりにつながります。

